

植物防疫情報第6号

平成28年8月17日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

モモせん孔細菌病の秋季防除を徹底しましょう

本年発生した圃場では来年の発生が多くなる恐れがあります。 秋季からの防除を徹底して、次作に備えましょう。

1. 発生状況

岡山県病害虫防除所が7月22日に行った巡回調査によると、モモせん孔細菌病の発生圃場割合は64.9%で、平年(23.4%)よりも依然として高く、しかも発病程度が高い圃場が増加しています(図1)。本病が本年多発した原因は、前年からの伝染源量が多く、また、4月から6月の降雨や強風が本病の発生を助長する条件となったためと考えられます。

2. 防除対策及び防除上の参考事項

本病は単独の対策のみでは十分な防除効果が期待できません。防除を体系的に行ってください。

- (1) 発生圃場において、新梢の枝病斑(夏型枝病斑)から飛散した本病原菌は、当年枝の皮目や落葉痕などで越冬し、翌年3~4月に春型枝病斑(スプリングキャンカー)を形成し、重要な伝染源となります。したがって、**夏型枝病斑を除去**し、圃場外に持ち出し埋設するなど、適切な処分を徹底しましょう。
- (2) 次作に向けて伝染源量を下げするために、**9月~10月の秋季防除**を徹底しましょう。9月上、中旬にバリダシン液剤5の500倍(収穫7日前まで、4回以内)またはスターナ水和剤1,000倍液(収穫7日前まで、3回以内)を散布します。また、9月下旬~10月上旬にICボルドー412(30~50倍)を2週間間隔で2回散布すると、伝染源量の低下に有効です。
- (3) 風当たりの強い圃場では薬剤による防除効果が得にくくなるため、防風ネット等の**防風対策**を徹底しましょう。

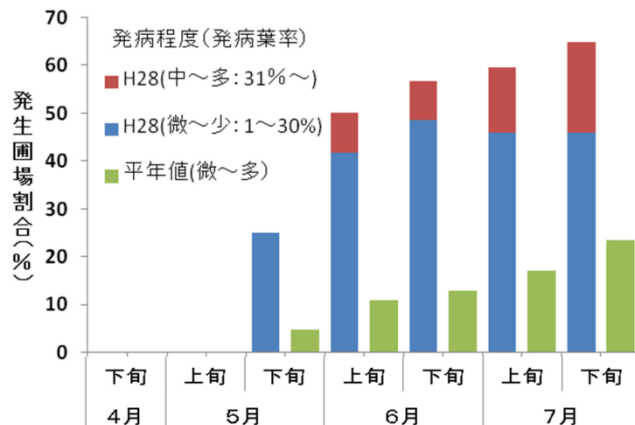


図1 本年の岡山県内におけるせん孔細菌病の発生推移
(岡山県病害虫防除所による巡回調査データ
(4月下旬~5月は7地点28圃場、6月上旬は10地点
36圃場、6月下旬~7月は10地点37圃場))



図2 せん孔細菌病の病徴
左: 枝病斑(夏型枝病斑)
右: 葉の病徴

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するをお願いします。

この情報は、植物防疫情報第3号、4号及び病害虫発生予察注意報第1号とともに岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

